

(公財)大学コンソーシアム京都	平成27年度経営計画 兼 経営努力結果
-----------------	------------------------

基本事項

所管局課	総合企画局総合政策室	本市出えん金	50,000 千円
基本財産/資本金	100,000 千円	本市出えん率	50.0 %

「外郭団体のあり方の抜本的な見直し」に係る「今後の方向性」

方向性	存続	目標年度	—
-----	----	------	---

「今後の方向性」に向けた基本的方針

業務面	「京都地域における大学間連携事業の推進」, 「加盟校の教育の質向上の追求支援」, 「「大学都市」京都, 地域の発展と活性化への貢献」を掲げて, 一層の大学振興に取り組む。
財務面	適切な効果検証に基づく「事業の選択と集中」を一層推進し, 財団の組織運営効率化や収支の改善を図っていく。
組織面	本財団がこれまで培ってきた「大学, 行政, 産業界が協力して, 大学教育研究活動を向上させ, これを地域社会と産業界へと還元していく」という設立の理念を一層前進させるため, 公益認定基準を遵守した公正な運営に努めつつも, 責任ある意思決定の仕組を効率化していく。
その他	特になし

当年度の取組目標に対する意見

所管局	<p>(公財)大学コンソーシアム京都は, 「単位互換事業」や「インターンシップ事業」などの大学間連携事業を幅広く展開しており, 本市施策「大学のまち京都・学生のまち京都」の推進に大きく寄与している。</p> <p>平成26年度補正予算では, 当期経常増減額が健全化するなど, 良好な財団運営に努める姿勢が伺える。事業展開では, 財団独自に策定した中期計画である「第4ステージプラン」(対象期間:平成26年度~5年間)における, 「単位互換事業」の『量から質へ』の転換をはじめとする事業改善の試みが評価できる。</p>
-----	--

当年度の取組に対する総括(※)

団体(※)	<p>当財団の中期計画「第4ステージプラン」の推進に向け, 同プラン2年目の当年度は, 具体的な事業展開(留学生支援事業, 調査事業の充実強化, 従来事業での新たな取組の実施等)を図ることができた。一方, 経営の安定化を目指し, 一層の経費節減にも取組んだ結果, 当期経常増減額の黒字を維持することができた。</p>
所管局(※)	<p>平成27年度決算では, 平成26年度に続き, 当期正味財産増減額は黒字となっており, 損益の改善に向けた取組の成果が認められる。</p> <p>設立以来, 「単位互換事業」や「インターンシップ事業」などに取り組み, 優れた成果を挙げるとともに, 留学生支援事業等の新たな事業展開を図るなど, 本市施策「大学のまち京都・学生のまち京都」の推進に大きく寄与してきたところである。</p> <p>一方, 大学を取り巻く今後の状況においては, 財団への期待はより多様化していくものと予想される。新たな中期計画である第4ステージプラン(対象期間:平成26年度~5年間)にも示されているとおり, 「大学間連携事業の推進」「加盟校の教育の質向上の追及支援」「地域の発展と活性化への貢献」を更に進めていくことが求められる。</p>
外郭団体総合調整会議(※)	<p>事業整理による効率化により財務面は改善しており, 「大学のまち京都・学生のまち京都」の推進に向けて, 引き続き先進的な事業への取組が望まれる。</p>

(公財)大学コンソーシアム京都	平成27年度経営計画 兼 経営努力結果
-----------------	------------------------

(1)業務に関する取組

目標1「京都地域における大学間連携事業の推進」

中期経営計画 における取組	<p>(公財)大学コンソーシアム京都は、京都地域の大学間連携と相互協力を図り、加盟大学・短期大学の教育・学術研究水準向上とその成果の地域社会、産業界への還元、また、地域社会、行政及び産業界との連携を促進し、地域の発展と活性化に努め、京都地域を中心とした高等教育の発展と社会をリードする人材の育成を目指している。第4ステージプラン（2014年度から2018年度の中期計画）において、「加盟大学・短期大学ならびにステークホルダーのニーズ・期待への対応」、「質の向上を基本とした「事業の選択と集中」の実施」に留意して事業に取り組み、本財団ならではの大学連携により、財団の基幹事業である単位互換事業、インターンシップ事業をはじめとする事業を着実に推進する。</p>
当年度目標	<p>財団の基幹事業である単位互換事業、インターンシップ事業をはじめとする事業を着実に推進する。併せて、量から質への転換を図り、事業内容の向上を基本とした「事業の選択と集中」を実施する。そのために調査・企画事業を強化する。 また、京都市など自治体との連携を一層進め、第4ステージプランでも方針を掲げている国際関連事業を強化する。</p>
当年度結果 (※)	<p>平成26年度から検討を進めていた「世界遺産PBL科目」を単位互換事業で開始するほか、新設した調査事業企画検討委員会では、専門家による財団事業の効果についての調査を実施するとともに、基幹事業に関する加盟大学へのアンケート調査を行い、参加者以外からのニーズや意見も把握する等、常に事業の見直し、質の追及を意識した運営を行った。 また、オール京都で創設した留学生スタディ京都ネットワークの事務局運営を担う等、留学生支援を一層強化するほか、「学びフォーラム」の中止を決定する等、事業の選択と集中に留意した運営に取り組んだ。</p>

指標①	京(みやこ)カレッジ出願者延数				(単位：人(延数))			
中期経営計画	平成26年度			平成27年度			平成28年度	平成29年度
	—			1,500			1,500	1,500
実績	目標	見込	実績(※)	目標	見込	実績(※)	—	
	1,500	—	1,748	1,500	—	1,946		

指標②	インターンシップ(プログレスコース)受講者数, 受入団体・企業数				(単位：人,社・団体)			
中期経営計画	平成26年度			平成27年度			平成28年度	平成29年度
	—			65			65	65
	—			9			9	9
実績	目標	見込	実績(※)	目標	見込	実績(※)	—	
	65	—	64	65	—	43		

(公財)大学コンソーシアム京都	平成27年度経営計画 兼 経営努力結果
-----------------	------------------------

目標2 「キャンパスプラザ京都の利用促進(講義室, 演習室, 会議室等の施設貸出)」	
中期経営計画 における取組	<p>キャンパスプラザ京都の指定管理者として、京都地域の大学・短期大学等が加盟する財団として、市民と大学の交流拠点として求められるサービスを、最適なコストで提供できるように、更なる効果的な運用を行う。</p> <p>京都駅前の交通至便な立地条件を活かし、大学関係者の利用はもとより、大学休暇期間には一般の利用者を確保できるよう広報を行い、年間を通して安定した稼働率の維持と施設使用料を確保する。</p> <p>キャンパスプラザ京都は平成12年の開館から平成26年で15年を迎えた。施設や講義室等の機器も老朽化してきており、改修やリプレイスが必要となってきた。これら改善を適正な時期に行い、利用者の利便性や快適性を図ることで、利用促進をめざす。</p>
当年度目標	<p>キャンパスプラザ京都は、施設条例に定める、大学における学術研究の成果その他の知的資産を活用することにより豊かな地域社会の形成に資するため、大学相互の間及び大学と産業界、地域社会等との間の連携及び交流を促進する活動その他の活動の用に供するために設置された。今年度もこの施設運営の理念に基づき、単位互換事業や生涯学習事業(京カレッジ)で積極的に本施設を活用するとともに、指定管理者として、講義・演習・会議室等の適切な施設提供並びに保守管理に努める。</p>
当年度結果 (※)	<p>当年度目標に掲げたとおり、単位互換事業や生涯学習事業をはじめとする事業で積極的に本施設を活用するほか、全館の案内表示や講義やイベントを表示するデジタルサイネージの改善を行い、指定管理者として当館利用者の利便性、サービス向上に努めた。</p>

指標	施設の使用料						(単位：千円)	
中期経営計画	平成26年度		平成27年度			平成28年度	平成29年度	
	—		99,500			99,750	100,000	
実績	目標	見込	実績(※)	目標	見込	実績(※)	—	
	99,250	—	92,894	99,500	—	101,752		

(公財)大学コンソーシアム京都	平成27年度経営計画 兼 経営努力結果
-----------------	------------------------

(2)財務に関する取組

主要財務数値							(単位:千円)
	平成26年度			平成27年度			備考欄
	予算	見込	実績(※)	予算	見込	実績(※)	
経常収益	393,493	—	394,027	395,034	—	418,497	
経常費用	403,217	—	360,660	380,251	—	398,875	
当期経常増減額	△ 9,724	—	33,367	14,783	—	19,622	
当期正味財産増減額	△ 9,677	—	28,808	14,814	—	19,622	
資産合計	—	—	436,329	—	—	458,088	
負債合計	—	—	41,286	—	—	43,423	
正味財産	330,014	—	395,043	—	—	414,665	
うち累積損益額	230,014	—	295,043	—	—	314,665	

目標「より効果的な事業展開に努め、長期的に安定した財政運営を図る。」	
中期経営計画 における取組	<p>収入については、財団の経常収益は会費収入と事業収入を基本としている。会費収入については、ほぼ現状維持にあるが、事業収入の減少が目立っている。事業収入の減少は事業の見直し・廃止が主要な要因であるが、継続している各事業における受講者・参加者数が減少傾向にあることもその要因となっている。近年、事業の拡大よりも質の充実に向けた見直しを進めていることもあるが、収入について自然増が望めない現状にある。</p> <p>中長期的には増収を見込むことが困難な状況下では、適切な効果検証に基づく「事業の選択と集中」を一層推進し、財団の組織運営効率化や収支の改善を図っていく。</p>
当年度目標	<p>大幅な収入増を見込めない厳しい財務状況であることには変わりはなく、相対的に効果の低い事業の縮減廃止、必要経費の見直し等により、経費の削減に努め、支出超過の財政状況を回避する。また、資産運用について、資金運用管理規程や特定費用準備資金等規程に基づき、資産の一部を施設整備の拡充や更新、来年度以降の新規事業の財源として活用する。</p>
当年度結果 (※)	<p>新規事業の開始に伴い支出は増となったが、新電力の導入等の経費節減に努め、安定した財務状況を維持することができた。また、留学生支援事業の拡充やサーバー等の設備更新の財源である積立金も計画的に運用し、中期的視点に立った資産運用に努めた。</p>

指標	収入合計, 支出合計					(単位:千円)	
	項目	平成26年度		平成27年度		平成28年度	平成29年度
中期経営計画	収入合計	—		435,967		380,147	374,820
	支出合計	—		426,539		375,234	374,601
実績	目標	見込	実績(※)	目標	見込	実績(※)	項目
	404,625	—	395,445	435,967	—	440,973	収入合計
	404,625	—	397,648	426,539	—	409,685	支出合計

(公財)大学コンソーシアム京都	平成27年度経営計画 兼 経営努力結果
-----------------	------------------------

(3)組織に関する取組

目標「事業展開に合わせた、効率的な人員配置」	
中期経営計画 における取組	財団職員としての資質向上を目的とした、財団主催の研修への参加促進を図るとともに、外部研修会への参加助成の検討を行う。 さらに、職員の短期出向制度などを設け、業務量の分散、軽減、効率化を図る。
当年度目標	平成27年度から財団国際関連事業を強化するため、京都市および大学からの出向者の状況を勘案しつつ、担当するスタッフ数を増加して、体制強化を図る。また、京都地域における留学コーディネーターや留学生誘致、留学生派遣強化等を担うための専門性を持った人材の複数人登用を目指すため、新たな専門職制度（留学コーディネーター）を平成27年4月より発足させる。
当年度結果 (※)	平成27年度に国際事業部を新設、また、留学コーディネーターを増員し、留学生支援体制の強化を図った。

指標	常勤職員数（役員は除く）						(単位：人)	
	平成26年度			平成27年度			平成28年度	平成29年度
中期経営計画	—			42			42	42
実績	目標	見込	実績(※)	目標	見込	実績(※)	—	
	42	—	42	42	—	46		